

文窓 ふみのまど

神戸大学文学部同窓会誌

発行
平成18年8月31日
第4号
神戸大学文学部同窓会
会長：安部 栄治
事務局
〒657-8501
神戸市灘区六甲台町1-1
TEL (078)881-1212(代)
FAX (078)803-5529



文窓会の昨今

文窓会会長 9回生
安部 栄治

大学が法人化されて2年が経過しました。その間、同窓会との関係も少しずつ変化してきています。大学それぞれが独立機関として自己責任で運営されることになったことは、取りも直さず、大学相互が様々な面で日常的に比較され、評価され、格付けされ、差別されたり、区別されたりすることになります。これは、今までがややもすると固定的であった評価や格付けが比較的容易に変化することでもあります。少子化で進学者が減少するなか、大学は純粋に競争の時代に入ったと言えるのではないでしょうか。

大学の評価は一般的には教育力と研究力によりますが、その基盤として優秀な教員と学生が必要です。学生の大学選びの大きな要素のひとつは卒業生の動向なのです。そこに同窓会の役割があります。

同窓会は会員相互の親睦を主たる目的としていますが、親睦を図ることは連携につながり、連携は帰属意識となります。縦、横の連携が強まることにより、同窓会員であることに一層の誇りを感じるようになってきます。こうした状況がいわゆる世間に認知されることにより、大学の評価は高まり、優秀な学生が集まることがあります。

そこで、文窓会は相互の連携に最も効果的かつ必要な活動は情報の提供、共有だと考え、年一回ですが、文学部の協力を得て、この同窓会誌「文窓（ふみのまど）」を「文学部だより」と合せて、全会員に配付することにしているのです。

また今年は、卒業生に現在の大学を紹介し、現役学生や教職員と交流する機会として、9月30日に「第1回神戸大学ホームカミングデイ」が開催されます。全体企画として午前に記念式典があり、午後は各学部で行事が行われます。（詳細は別資料参照）文窓会は総会、懇親会を予定していますので、ぜひご参加ください。なお記念式典には会場の都合で原則として卒業後55年、45年、35年、25年の方々がご案内されることになっています。

また、各学部同窓会の連合体として神戸大学学友会が組織されていますが、大学の法人化に伴って、学友会の活動も重要視されてきています。文窓会もその一員として、文学部の発展のために、大いに協力していく必要があります。

これからも文窓会の活動をより一層意義のあるものにするため、知恵をしぼっていきたいと思っていますので、ご意見を寄せただければ有難いです。

知ることと学ぶこと

文学部長・文化学研究科長
文窓会名誉会長 松嶋 隆二



文学部同窓会の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。我々は教育や研究の場において、様々な文献を読み、理解し、考え、話、文章を書き、説得し、反省と自己洞察を繰り返します。このような人間の働きを支えているものが何であるかを、端的に教えてくれる本があります。3度の脳内出血で、高次脳機能障害が残り、これまで簡単にできていたことができなくなった女医、1児の母の闘病記、リハビリの記録です。これは、ヒトが新しいことを学ぶこと、身に着けて行くことについての重要な側面を教えてくれます。

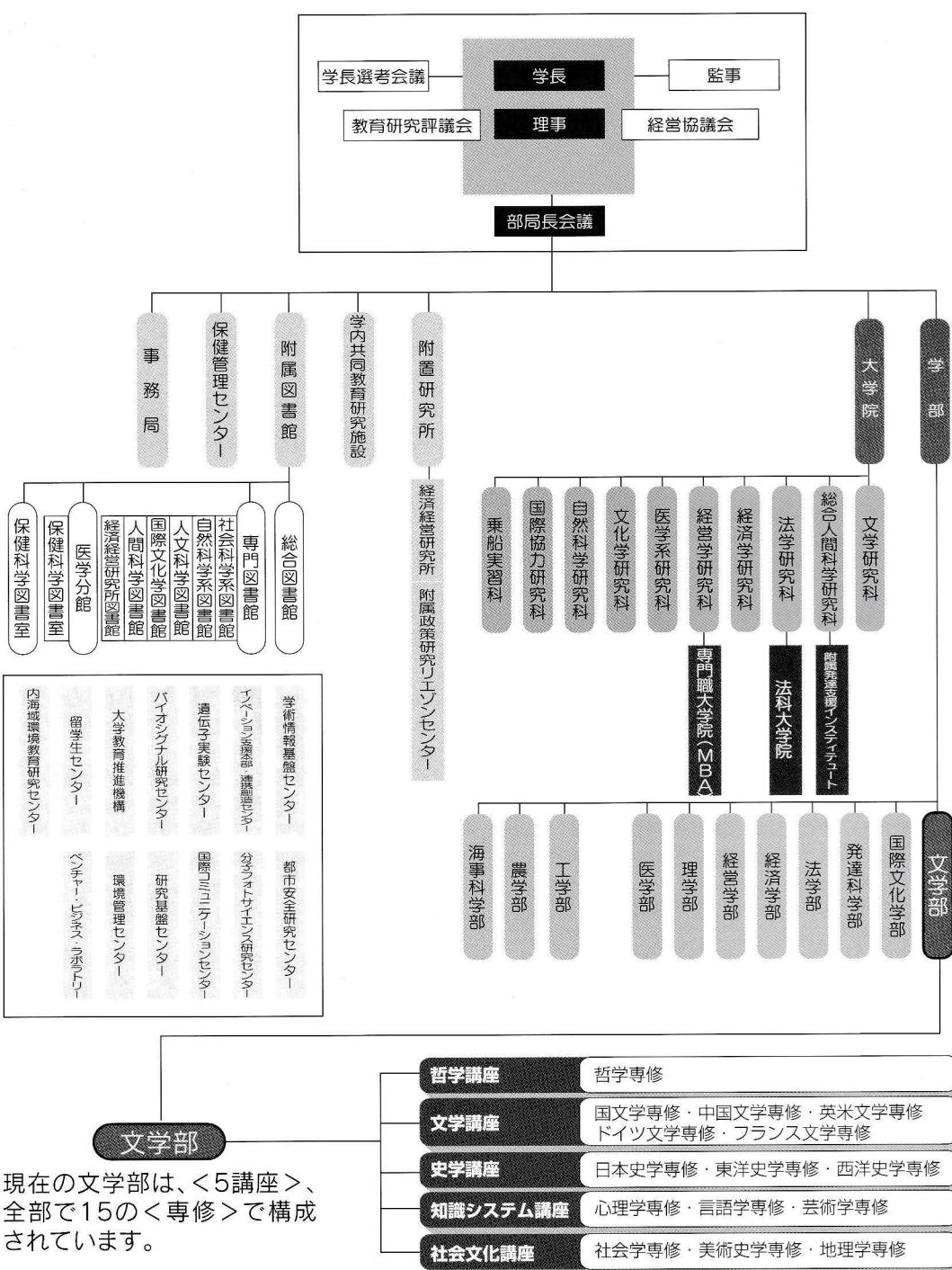
立体視ができないくなる、視野の左を無視する、漢字が書けなくなる、意識的に物を飲み込めなくなる、アナログ時計が読めなくなる、階段の上り下りが出来なくなる、などの後遺障害に見舞われた母親の記録です。自己反省することで、対処法をいろいろ工夫して、乗り越えてゆく様子が、「壊れた脳、生存する知」という本には書かれております。

「漢字は考えて書くと駄目だが、『運動神経で書く』とうまく行くとか、嚥下障害も、よくかんでいるうちに、食物が反射機構のどこかを刺激し、反射機構が作動するまで待つと、うまく飲み込める」などを発見する様子が書かれております。物がどこに触ると反射機構が働き出すのかを見つけ出したわけです。これは、自分の行っていることを反省し、うまくいったときとそうでないときの運動と感覚の違いを客観視し、対処法を発見してゆく過程が、淡々とかかれております。

この二つの例は、意図的に運動するということを計画して体を動かすということでは、乗り越えられなかつたものが、何かに気づくことで出来るようになる事を示したものです。興味のある方は、山田規久子さんのこの本を読んでみてください。また、山鳥重（あつし）先生の解説も示唆に富んだものですのでそこも忘れずに読んでみてください。



神戸大学運営機構と現在の文学部



COTENTS.....

文窓会の昨今・知ることと学ぶこと.....	1
神戸大学運営機構と現在の文学部.....	2
教員が紹介する各専修のプロフィール.....	3~7
平成18年度神戸大学入学式 学長式辞より.....	8~9
文窓会会員より.....	10~12
東京支部便り・東海支部便り.....	13
神戸大学文窓会 会計報告.....	14
お知らせ 第1回ホームカミングデイ&文窓会総会	
就職支援の協力お願い・活動報告.....	15
学友会・K・U・C・文窓会ホームページ・編集後記.....	16

教員が紹介する各専修のプロフィール

哲学講座 哲学専修

万古不易の問いを、
今を生きながら学び、探求する。

松田 毅 教授

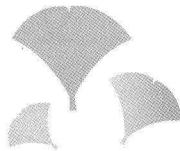


哲学は、存在、真理そして善美をめぐる、万古不易の問いを、先哲たちの全人的格闘から学び、探究すると同時に、それをまさにこの今を生きながら行う学問です。学生の動機は様々ですが、どの時代にも変わらない、人間のこの根本的 requirement に可能限り、応えることができるよう、専修の教員一同努力しています。たとえば、二十代に読んだ書物を何十年か後に読み直したときの新たな発見の喜びや、現代の直面する問題群への取り組みの真摯さを卒業生の皆様にも共に味わっていただければ、と願っております。

文学講座 国文学専修

言葉と世界の関係に関心のある
全ての人々にとって、有益。

樋口 大祐 助教授

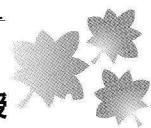


人間は言葉によって生きる動物であり、言葉によって傷ついたり、励まされたりします。国語国文学は、言葉の働きや言葉によって編み上げられた物語を通じて、世界のあり方について考える学問です。そこで大切なことは、他人の意見や動向に追隨することなく、自分自身の疑問を徹底的に追及するという姿勢です。力のある言葉の多くは、その言葉を生み出した人の現実生活の中で芽生えた、喜びや哀しみ、怒りの経験をその出発点にしているものです。国語国文学は言葉と世界の関係に関心のある全ての人々にとって、有益な学問だと思います。

文学講座 中国文学専修

書籍、映画、音楽、演劇などを通して
多くの「中国」に触れる。

濱田 麻矢 助教授



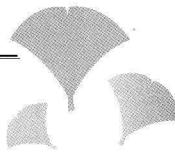
とにかくたくさんの中中国語に触れること。書籍だけでなく、映画や音楽、演劇など、多くの「中国」に触れることで、今までの中国へのイメージが大きく変わることと思います。学生時代、中国映画が小さな劇場でかかればでかけてゆき、伝統演劇の興行があればチケットをとり、留学生のホームパーティーがあれば顔を出し……と、授業以外にも中国語を聞ける場、中国文化を体験できる場を積極的に活用したことが、書物から学んだことを肉付けしてゆく上で大きな財産になりました。あなただけの、魅力的な中国文化を見つけてほしいと思います。



文学講座 英米文学専修

殺伐とした世にこそ、ことばに対する
感受性と共感する心を大切に。

佐藤 光助教授

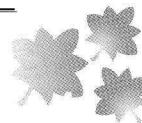


『ハリー・ポッター』は、なぜあれほどベストセラーになったのでしょうか。おそらく、ことばと文化のちがいを超えた普遍的なテーマを、エンタテイメントというかたちで巧みに提示できたからであり、それは、私たちが競争と戦争の時代に生きていることと無関係ではありません。殺伐とした世なればこそ、ことばに対する感受性と共感する心を大切にしたい。生きるとは何だろう。家族とは何だろう。平和とは何だろう。みなさんの本質的な問いかけに対して、英米文学はさまざまなヒントを与えてくれるはずです。

文学講座 ドイツ文学専修

自由闊達な精神で、ドイツの
言語と文学を手がかりに精神形成を。

山口 光一 教授



ドイツ文学専修は、自由闊達な精神を重んじています。ドイツの言語と文学を手がかりに、学生諸君がのびのびと勉学に勤しみつつ精神形成を行う場です。新しい外国語を身につけながら、西欧の文化に親しみ、その精髓に触れてていきます。ルター、フリードリッヒ大王、ニーチェ、そして緑の党、ダイムラー・クライスラーと、時代や分野を問わずドイツにかかわりのあるトピックに関心のある学生ならみな歓迎です。

文学講座 フランス文学専修

「作者」さえもが意図しなかった
「意味」を発見することも。

松田 浩則 教授

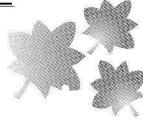


フランス文学専修の授業では、フランス語で書かれた近・現代の文学テクストを読むことがその中心になっています。ただし、「読む」とはいっても、書かれてある内容を客観的に読み取ることだけが読むことではありません。テクストを出発点に、ひょっとすると「作者」さえもが意図しなかった「意味」を読者であるわたしたちが発見する経験が「読む」ことなのです。少人数教育のいい点を十分に生かしつつ、活発な議論を通じて、「読む」経験が日々重ねられています。

史学講座 日本史学専修

歴史の研究を通して地域づくりに取り組む人材育成事業を。

市澤 哲 助教授



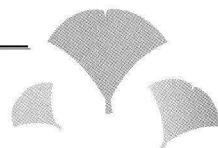
近年文学部地域連携センターでは、自治体や住民と連携して地域歴史遺産を継承し、地域づくりに活用する事業を展開してきました。日本史専修ではこれを大学教育に連結させ、歴史の研究を通して地域づくりに取り組む人材育成事業を進めています。講義には、学芸員、住民団体のリーダーをはじめ、工学部（建築史）、経営学部（博物館経営）、農学部（農業博物館）、医学部（博物館のバリアフリー化）からも講師を招いています。また、院生が講師となって古文書教室を企画開催したり、演習の成果を博物館の展示として公開するユニークな実習も実施しています。

ご興味のある方は、一度HP（<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/%7Eisan/>）をご覧下さい。

史学講座 東洋史学専修

教科書どおりではなく、自分で一から歴史をくみたてていくおもしろさを。

真下 裕之 助教授

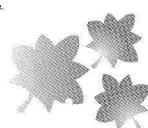


歴史の勉強は一種の異文化体験です。知らないことや分からることに対する大きな驚きを、恐れや蔑みではなく、楽しみへと変えられる柔軟な感性。その楽しみを消費するばかりではなく、異なるものに真摯に向き合う強靭な知性。こうした能力は教えられて身に付くものではありません。ですから当専修では学生の自主性を重んじます。学生諸君には、教科書に書いてある歴史を頭に入れるのではなく、自分で一から歴史をくみたてていくおもしろさを知ってほしいと思っています。

史学講座 西洋史学専修

現在の日本と遠い分だけ、思考の地平を広げてくれる分野。

高田 京比子 助教授



西洋史は西洋という「他者」の歴史を古代から現代まで研究する学問です。そこには「他者」の歴史ゆえのわかりにくさもありますが、現在の日本と遠い分だけ、思考の地平を広げてくれる分野といえるでしょう。また、今現在の欧米世界を理解するためにも過去へのまなざしは重要です。西洋史で卒業論文を書くためには、先人の研究蓄積を手がかりに主として外国語の文献・史料を読み解いて自らの見解を見いだしていくなければなりません。相当な熱意と忍耐が必要ですが、完成時にはそれだけ大きな喜びを見いだすことができます。

知識システム講座 心理学専修

実習や調査による分析をふまえ、
「人間」を科学的に理解する。

松嶋 隆二 教授



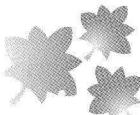
「心理学がどうして文学部にあるの？」よく尋ねられる質問です。おまけに実験器具を使った実習や調査による分析と、ちょっと理系的授業科目も並んでいます。でも心理学が「人間」を科学的に理解しようとする学問であることがわかれれば、謎が解けた気がしませんか？

小説家を志した大学生が、人間について知るために文学の教授の勧めで心理学の授業を受講したところ、その方法論に魅了されて、今では世界を代表する社会心理学者になっているという実話もあります。人間の本質に科学の視点から迫りたいという熱意のある方、教室をあげて歓迎します。

知識システム講座 言語学専修

素朴な疑問を出発点として、
言語の不思議さと面白さを探究する。

窟薙 晴夫 教授



言葉は私たちと身近なところに存在している。私たちは子供の時から日常的に言葉を使って生活しているし、言葉の研究がすべての学問の中心であると言っても過言ではない。にもかかわらず、私たちが言語について知っていることは少ない。たとえば同じ「仮名」という語でも「ひらがな」では濁るが「かたかな」では濁らないのは何故か。このような基本的な疑問にすら十分な答えが出でていないのである。言語学は、このような素朴な疑問を出発点として、言語の不思議さと面白さを探究する学問分野である。

知識システム講座 芸術学専修

各自が自らの芸術的・学問的興味に
従って研究を進める。

長野 順子 教授



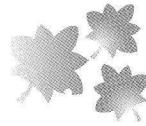
実技コースではないので、実際に創作活動に携わったことがあるかどうかは問いませんが、具体的な芸術ジャンルのどれか（文芸・演劇・映像芸術・音楽など）への深い関心と経験、及び文献資料をこなす確かな語学力が望まれます。好きでたまらないというこだわりや美的センスはもちろん大切で必要ですが、それだけでなく芸術やアートから一歩距離をおいたクールな問題意識、知的な探究心も必要です。専攻する学生各自が自らの芸術的・学問的興味に従ってのびのびと研究を進めています。



社会文化講座 社会学専修

あなた自身のなかに「他者」を
発見する冒険を。

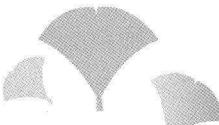
油井 清光 教授



「社会」といっても、あなたから遠いものではない。仲間と二人になれば、もっと言うとたとえ一人でいても、他の人のことを思っていればそこに「社会」がある。つまり社会はあなた自身のなかにあり、「あなた」の集まりが社会だ。社会学は、そういう実感を伝えようとします。それはあなた自身のなかに「他者」を発見する冒険でもあります。空気のように当たり前にその中で暮らしている「社会」について、あらためて考えてみること。そんなことを落ち着いて考えてみるキャンパスでの時間が「人」という社会的生物には必要ではないでしょうか。

社会文化講座 美術史学専修

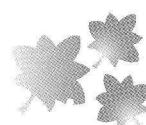
美術史はイメージを
歴史的に解読するれっきとした学問。 宮下 規久朗 助教授



美術史ほど楽しい学問はありません。私のように、何よりも美術が好きな者にとっては趣味と学問との区別がほとんどつかないくらいです。ただ、美術史は高校までの美術の授業（「お絵かき」）とはまったく違って、イメージを歴史的に解読するれっきとした学問です。本を読むより、とにかく「見る」ことが好きな人間には向いているといえるでしょう。この研究室は、小じんまりとしていますが、和気あいあいとしていて、学生と教員、卒業生とのつながりも深く、美術史をしっかり学ぶには最適の環境だと思います。

社会文化講座 地理学専修

特別な方法や理論は存在せず、
空間的に考えることが唯一の枠組み。 長谷川 孝治 教授



小学校から高校までの学校地理は、地名や統計の記憶科目という印象が強いと思われますが、大学での地理学は全く異なった形で展開しています。特別な方法や理論は存在せず、空間的に考えることが唯一の枠組みです。したがって学校地理を苦手としていた人でも、興味あるフィールドやテーマに没入する意欲さえあれば、十分にオリジナルな研究が可能となっています。TVやパソコンのヴァーチャルを捨てて、現実の街のざわめきや、土ないしは海の匂いを体感し、自らの「生きられる世界」を求める人を待望しています。

平成18年度 神戸大学入学式 学長式辞より

去る4月6日、神戸市中央区の神戸ポートアイランドホールにて、平成18年度の神戸大学入学式が行われた。学部学生2,710人、博士課程前期課程・修士課程大学院生1,192人、博士課程後期課程大学院生385人、社会人MBAと法科大学院の専門職学位課程大学院生183人、そして3年次の編入学学生217人、計4,687人の新入生を迎える。野上智行学長より式辞としてお祝いと励ましの言葉が贈られた。

新入生にとって意義深い野上學長の式辞は、今、実社会で人生のさまざまな過程にある文窓会員にとっても、視野を広げ新たな意欲と勇気を与えてくれるものと確信する。よって野上學長より快諾を得て、ここに掲載させていただいた。

国際性豊かな神戸大で、 未来を築く人に

◆ 神戸大学長 野上智行 ◆



● 神戸大学の伝統

神戸大学の特徴は何よりも国際性において語ることができます。日本国内の産業界、官界はもちろんのこと、学術の世界や文化活動の諸分野で多くの先輩が活躍しています。海外のどの都市に行っても、神戸大学を卒業された方々が重要な役割を果たしておられます。(中略)

神戸大学は、神戸高等商業学校や兵庫県下の多くの高等教育機関を母体として創設されたものですが、その起源は100年以上の昔にさかのぼります。神戸大学を構成する11の学部のル

ーツとなった高等教育機関は、いずれも世界に飛翔する人間性豊かな国際人を育成することを伝統としてきました。

現在の神戸大学は、世界60か国以上の170の大学や研究機関と学術交流協定を結んでいます。先生方の活動に国境はなく、世界の研究者と日常的に交流し、新たな知の創造にまい進しています。その現場で皆さんには学ぶ機会を獲得されたのです。

● 国際性豊かな人として

日本も小学校から英語が必修となるという話を聞いています。国際社会に生きる私たちに必要なコミュニケーション能力として、英語で話し、理解することのできる力が必要であることは言うまでもありません。しかしながら、文化や価値観の相克の中で多くの困難な課題に直面している現代社会で生きるには、自国の文化と歴史についての深い理解に根ざした表現力が求められます。その力は豊かな母国で自らの考えを表現できる力に支えられるものです。

自国の文化や歴史に関する知識や理解は、どうやって深めることができるのでしょうか。もし皆さんが、この同じ時代を生きている世界中の若い人々と、同じ場と時間を共有することができるなら、そして、共通の課題を協同して解決しようとする営みがなされるなら、そこに

大きなチャンスが生まれます。その機会は、それぞれの歴史観や文化観に大きな影響を与えることとなります。こういった環境と機会を持つことができた者は幸いです。その点で、神戸大学生になったさんは日本で最も豊かな環境を獲得されたのです。

日本文化の象徴である京都や奈良を背景にして、国際都市神戸で学ぶことのできる皆さんに特別な環境を得たことになります。地理的な特性は所与のものですが、何よりも、神戸大学で60か国以上の1000人の留学生とともに日常を過ごし、日本の伝統的な文化や社会についての先端研究はもちろんのこと、国際的な共同研究が日常である先生方のもとで学ぶことができる環境が、皆さんの中になつたのです。

● 真摯であるということ

神戸大学は100年を超す歴史の中で「真摯」「自由」「協同」の精神を大切にしてきました。この精神は、国際性豊かな神戸大学の環境の中で育まれたものです。

国際的な環境下では、人々はなにより真摯であることが求められます。真摯であることは、人としての品格の基本的な側面です。神戸大学に入学された皆さんには、何よりも自分自身に真

摯であることを求めます。自分自身の人としての尊厳を自らの手で大切に育んでください。自己に真摯である者だけが、他者の尊厳を認め、協同して事業を遂行することができます。時代がどのように変わろうとも、互いの尊厳を認め、それぞれの違いを超えて協同することによってはじめて未来が約束されます。

● 自由であるということ

新入生の皆さんは受験勉強という厳しい環境下にあって、現代文や数学、日本史、世界史、あるいは物理、化学、生物、などの教科書に凝縮された知識の獲得と大量の試験問題を処理することに、ほとんどの時間を費やしてきたことだと思います。その過程では、ともすると、皆さんのひとりひとりの存在意義は模擬試験などの序列の中に位置づけられてきたのではないかと思います。しかも、このことが長く続くことによって、皆さん自身が入試という評価基準によってのみ自分を捉えてきたのではないかでしょうか。意識しないうちに、自分の可能性や個性を偏差値のみで判断する習慣ができているかも知れません。

本日、皆さんはその限定された評価基準によって描かれた自己評価から自由に解き放たれる時を迎えたのです。神戸大学生となることによって、一面的な自己評価から脱却され、新たな自己を形成する自由を獲得されたのだと思います。

神戸大学生としての学生生活は、自分に対する固定観念から自己を解放する機会を与えてくれます。神戸大学人にとっての自由は、苦労をいとわず、新たな自己を形成することへ挑戦する者に与えられるものであると考えています。

● 協同がもたらすもの

神戸大学は世界をリードする学術研究の拠点です。人間について問い合わせ、文化について問い合わせ、社会について問い合わせ、自然の摂理について問い合わせ、宇宙の構造について問い合わせ、生命の営みを探り、新たな技術革新と医療に挑戦する研究者や大学院生が皆さんと共に過ごします。同じ時間と場所を共有するのです。

この環境の中で学ぶことにより、皆さんは、私たちの文化や社会の現在の姿は与えられたものではなく、私たちの先輩が築き上げてきたものであることを知り、現代の企業や自治体や、科学技術や医療の革新の担い手はほかならぬ、私たちであることを知ることとなります。

これから文化や社会、学問、科学技術の担い手はほかならぬ自分自身であり、多くの人の協同によって構築されることに気づくことができると思います。皆さん知っている国際的な企業や国内有数の会社の創設者や学問の創設者が、神戸大学の卒業生であることを知り、目の前にいる先生が世界で活躍されている研究者であることを知ってもらえることだと思います。神戸大学を構成する先生方、お世話をする事務スタッフ、学部や大学院の先輩や課外活動での同僚との日々の協同は皆さんにかけがえのない価値を提供することを約束します。

● 未来を切り開く人に

いま、皆さんは、神戸大学の入学式の場にいます。この時を迎えるまでの皆さんのそれぞれの個人の歴史は、まったく違っていました。その違いは、神戸大学での皆さんの将来にとても大きな役割を果たすことになります。60か国を超える国々から神戸大学のキャンパスに集うこととなった異なった価値観をもち、異なる環境で育った2万人が、一つの時間と場を共有するのです。このことがもたらす可能性は計り

知れないものです。皆さんには無限の可能性が与えられました、いや皆さんの努力で、自らの力で勝ち取ったと言った方が正確かと思います。

神戸大学生であることの特権をフルに活用して、自分の未来を確かなものにし、人類の未来を築くことのできる人として成長されることを祈念して、学長の式辞いたします。

香港との出会い

今、大学当時にはとても想像することは出来なかつた「公認会計士」という仕事についている。いろいろないきさつがあつたが、30代半ばで試験に挑戦、運よく二次試験に合格し、今に至つてはいる。二次試験合格後、一回りほど年下の「同期の桜」仲間に混じり、ねじり鉢巻がんばつたものの、会計や監査とはどうも相性が悪いのか、出来の良くない会計士だつた。仕事に燃えることが出来ず、湿つた薪のようにブスブスとくすぶり続けていた1980年代の終わり頃、事務所内で「香港への海外駐在の募集」があつた。

海外で仕事をすること、他文化とのかかわり、そして何より香港の置かれた歴史的状況に野次馬的興味があつた。英國植民地であった香港が1997年7月に中国に返還され、それ以降2047年までの50年間は「一国二制度」をとるという、歴史上例の無い環境に身をおいてみたかった。大学時代は遊び専門の学生であったが、西洋史学科の個性豊かな教授陣の教えが身体のどこかに根付いていたのであろう……「歴史とは単に過去を学ぶだけでなく、将来を考えるための学問」。

1990年1月に3年契約で香港に渡つたが、結局

西洋史学科 17回生 西川 京子

2000年12月まで11年間を香港で過ごすことになつた。赴任当時の香港は、返還を控え活況を呈していた。日本からの投資も増加の一途をたどつていた…香港の自由なレセフェール政策と低税率を求め、また、潜在的巨大市場である中国への窓口として。こうした日系企業に対し、会社の設立から、監査・税務、企業M&A、そして清算に至るまで、投資のアドバイスをするのが我々の仕事であった。香港人・中国人と仕事をしていて、金儲けに対する意欲とそのしたたかさに何度も舌を巻くことがあつた。一国に共産主義と自由主義を共存させ、香港の役割を最大限に活用し、中国・香港双方の利益を図る……とても日本人には出来ない発想・行動であろう。

当時、香港は同じイギリスの植民地として、シンガポールと比較されることが良くあつた。香港人のボスの言葉、「政治的な権利などほとんど興味がない、自由であれば……」。私が滞在期間を延ばしたもの、香港人をはじめとする大事な友人を得たのと、そしてこの自由がとても心地良かったからだと改めて感じている。香港に住む友人のためにもこの自由が続きますようにと願いをこめてペンをおきます。

新社会人として、今思うこと

今春から4年間住み慣れた神戸を後にし、東京で新社会人生活を送つてはいる。勤務先は電通テックのCM制作部門。目指すはCMプロデューサー。

4・5月は、新入社員全27名で研修を受けた。CM制作部だけでなく、イベント、セールスプロモーション、グラフィックなど、会社の様々な部門で活躍する先輩社員の話を聞いた。

先輩社員の話で共通していたのは、情報を使い捨てにしないこと、そしてあらゆる情報に対して貪欲になるべし、ということだった。改めて言うまでもなく、広告とは時代の先端、あるいは半歩先を行くものでなくてはならない。そうした業界に携わる者にとって、一つ一つの情報が持つ価値を見極める作業というのは、当然必要になってくるだろう。

しかしながら、これがなかなかに難しい。現在、会社の人材開発部の斡旋で日経MJ新聞（日経流通新聞）を購読させてもらつてはいるが、隔日発行のこの新聞を熟読することすら十分にできているとは言えない。学生時代の自分がいかに情報に対して鈍感であつたか、また1日24時間という限られた時間の使

53回生社会学専修 居郷 啓太郎

い方にする意識が、いかに低かったかを痛感させられる。

ただ、情報の大切さを自覚するだけで、毎日の見慣れた風景が途端に刺激的なものに見えてくることも、また事実である。例えば通勤の電車内の吊り革広告。女性向けファッション誌の見出しを眺めるだけで、今シーズンのトレンドが分かつたような気になるから不思議だ。何気なく見てはいた映画の制作に関わった人と、職場で同じスタッフとして関わることもある。

あらゆる情報が仕事に生きてくる可能性を秘めている。それだけに、今はまだ情報の取捨選択に戸惑っている感じだ。それでも常に好奇心のアンテナを八方に向け、情報の食わず嫌いにだけはならないよう気をつけたい。

外からの情報はもちろんのこと、CM制作部の一員としても覚えること・身につけることが毎日目自押し。首からぶら下げた社員証の紐にボールペンとWクリップ、ズボンの後ろポケットにはメモ帳をしのばせて……新入社員・居郷は今日も行く！

やすらぎの島。ポートアイランド

私は幼い頃から、神戸市中央区のポートアイランドに住んでいます。ポートアイランドは三宮の南側に位置する、人口の島です。「人工島」という言葉は無機質に感じられますが、完成から25年がたった今、植樹された木々も25年分成長し、「自然との憩い」を感じることのできる島となっています。

その中でも今回は、私の好きな2つの風景についてお話ししたいと思います。

ひとつめは、晴れた日に「ポートライナー」の車窓から眺める海辺の風景。通勤時、行きの道には陽光を浴びてきらきらと光る海が……帰り道には、茜に染まる夕暮れの空が……。私に「いってらっしゃい」「お帰りなさい」の言葉をかけてくれるかのようです。

夕焼け空の反対側では、夜の闇がそっと忍び寄る様子が見られます。それが、ふたつめの風景です。

西の空が赤く染まる頃、東の空は紫をおびた薄い蒼に染まります。

空も、建物も、道路も、道行く人も。

全てが「蒼になる」瞬間。

ふさわしい刻にその風景に立ち会えた日には私はなんともいえない充足を感じます。

よろしく！

COLUMN COLUMN COLUMN COLUMN COLUMN COLUMN COLUMN COLUMN

江戸落語の女性真打ち〈桂 右團治さん〉神戸つながりで、ごひいきに！

神戸出身で県立星陵高校から早稲田の法学部へ。1986年11月十代目桂文治に入門、2000年初代「右團治」の名で落語芸術協会女性初の真打ちに昇進。正統の江戸落語にこだわる右團治さんを、東京在住の文窓会員諸氏、ぜひ応援してあげてくださいね。

桂 右團治公式サイト「右團治画報」公演のチェックもこちらで。<http://udanji.cool.ne.jp/>

49回生 西村 美佐

と同時に、物悲しい思いもするのは、その蒼い視界に自分の通った保育園、小学校、中学校があるからでしょうか。

東向きである私の部屋から見える、この上なく贅沢でノスタルジックな風景です。

1981年には「海上文化都市」「未来都市」と謳われピカピカの1年生だった「ポーアイ」も、完成から25年、今はすっかり落ち着いた街となりました。

神戸空港の開港で、行き来する人の数は増えましたが、それでも住宅地界隈はゆったりとしたたたずまいです。

三宮をはじめとする市街地に比べ車の量も、人通りもぐっと少ないのですがその静けさがもたらすものは「寂しさ」よりも「やすらぎ」なのだと思うようになりました。

ごく最近、島外に住む友人がこの島に来た日、褒め言葉だよ、と前置きして「あなたとポートアイランドは似ているような気がする」と言ってくれました。「ずっと住んでいるのなもの、似てくるのは自然な事だよ」と答えながら、私はどことなく嬉しさを感じていました。社会に出てからことさらに、私はポートアイランドが好きになっていたのだ、そう思いました。

この島の風景が私を和ませるように、私も人にやすらぎを与える人でいたいと思っているこの頃です。

18回生という世代

2007年問題が現実になろうとしている。私はその当事者、1966年入学の18回生である。在学中は3年生から4年生にかけて大学紛争を経験した。正確には1968年12月六甲台学舎の本部事務室封鎖及び翌年4月4日文学部封鎖から8月8日の封鎖解除に至るまでが大学紛争のさなかにあり、少なからぬ同窓生がそのまま大学を離れていった。文学部教務学生係で中退者の数を調べていただいたところ、それまでは1~4名で推移していた退学者数が17回生7名、18回生12名、19回生7名、20回生9名(1966年4月~1974年3月までの数字)と上昇しており、明らかに大学紛争が何らかの要因となったことが推測できる。ちなみに、18回生の卒業者は87名、退学者は12名。その内訳は、哲学科4名、文学科2名、史学科4名、未定2名であった。

同窓つながりで出会った仕事

ある日、オフィスに電話があった。大学時代からの唯一行き来があるデザイナー、「スタジオ感」の川村さんだ。彼女は東洋史を専攻していたが、大学紛争のあと大学に戻ることなく、デザインの道を選び、現在はWEBの企画制作を主力に自営している。

「同期の哲学専攻だった弟月くんって覚えてる? 彼も大学に戻らず、今は東京でコア英語教室という英語教育の仕事をしているんだけど、今度、関西進出に際して、いろいろ相談にのってくれる広告代理店を知らないからって聞かれた」というのだ。彼女自身も、西洋史専攻であったTさんという友人の女性から弟月さんを紹介され、コア英語教室のパンフレット制作やホームページの立ち上げを手伝ったのがきっかけだったという。

コア英語教室の応援をよろしく!

イメージ作りから企画して新聞広告やチラシ、パンフレットなどを作成し、初の関西でのチューター募集を展開したが、当初の目標をクリアでき、この春から12教室がオープンした。今後、関西にも拠点を開設して、弟月社長自らのリタイア以降の体制固めに本格的に着手する計画だそうだ。神戸大学文学部在学生、卒業生の英語教育に関心がある優秀な人材には、ぜひ名乗りをあげてほしいとのメッセージをもらっている。

思いがけない同窓つながりであったが、ひとつ

私の場合、今回たまたまご縁があり、この「文窓」誌の整理作業をお手伝いさせていただいたが、その際に文学部学長や事務長にごあいさつ伺った。キャンパスに足を踏み入れたのは卒業以来36年ぶりのことであった。

ずっと大阪でコピーライターの仕事をし、P&G、ワールド、アシックス、シャルレ、と偶然にも神戸にクライアントが多いため車窓から六甲台を見る機会も多かった。目印の赤いカマボコ屋根を目で追うのが常であったが、かつては一目でわかつたその位置も、今では建物が建て込み見失ことが多い。

文学部とも同窓会ともまったく接点のなかった私ではあったが、昨年から文学部つながりのご縁で思いがけず同窓のネットワークを持った。2007年前夜の年にその経過をお話ししてみたいと思う。

さっそく弟月社長に連絡を取り、大阪にある日豊社という実直でフットワークのいい中堅代理店を紹介した。その代理店で大手機械メーカーから転職した若手営業マンの〇さんが、神戸大学工学部卒業ということも、選んだ大きな理由のひとつであった。企画とコピーは私が担当させていただいた。

果たして初顔合わせは正解であった。大阪へ初めての打ち合わせに来た弟月社長は、1974年に創立以来、首都圏に220教室を擁し、CNN英語ニュースでおなじみの英語学習情報誌の最高峰「CNN English Express」でその指導法が「英語学習法グランプリ」を受賞したコアの教え方や、高い教育理念、そして現在の学校での英語教育の問題点などについて熱く語った。

気付いたことがあった。私は弟月社長とは面識がなかったけれど、どこか根っこに共有する部分がある、という感覚を抱いていた。きっと何か「思い」があるに違いないし、それを知りたい。だから、一般的の仕事への入り方と違って、まず「思い」を聞こうというところからスタートができた。こういう“同窓会”もあっていいと思った次第だ。



<http://www.core-lib.com/>

東京支部便り

●同窓会および木曜会

1. 第四回神戸大学文学部東京支部同窓会（文窓会）

下記にて開催致しますので、お繰り合わせの上ご参加下さい。

ご案内状を出来るだけ幅広く出す予定ですが、10月中に案内が届かない方で参加希望される方は、下記東京支部連絡先（幹事）まで、イーメール、FAX、郵便物にてお知らせ下さい。

場 所：神戸大学東京凌霜クラブ

(日比谷帝劇B2 電話：03-3211-2916)

日 時：2006年11月30日(木) 15時より17時まで

茶話会：会費3,000円

2. 第四十六回神戸大学木曜会：

11月30日は、文学部の担当であり、脇田(旧姓麻野)
晴子・城西国際大学教授（神戸大学文学部昭和31年
卒）をお招きして、講演をお願いする予定。

日 時：上記同窓会と同日、18時より20時まで

場 所：上記同窓会と同場所

講演の演題：脇田教授は日本中世史がご専門であり、興
味のある演題をお願いしています。

会 費：5,000円

3. その他：

①メル友：現在手元にあるメル友の名簿には、90名
の方が登録済みで、東京凌霜クラブに関する情報
をその都度流しています。

更にメル友の名簿の充実をはかりたく、メル友に
加えて欲しいとの希望者は下記にメールを下さい。

②本部より、東京支部に、3万円のご寄付をいただき、
郵送費および雑費として賄う予定です。ご配慮に感
謝致します。

(中野裕記)

東京支部役員：支部長 小野幸次(32年卒)

幹 事 河野房子(35年卒)

幹 事 中野 裕(36年卒)

東京支部連絡先：

〒223-0064

横浜市港北区下田町1-1-1-113

中野 裕

TEL&FAX : 045-561-6317

イーメール : y.nakano@d9.dion.ne.jp

東海支部便り

■東海支部第二回総会の開催

東海支部では、5月28日(日)、名古屋市のホテル・
ルブラン王山で第二回総会を開催しました。今年は大
学側から松嶋隆二文学部長、文窓会からは安部栄治
会長にご出席いただきました。

18名の方々の出席がありました。議事としては、
役員の一部変更が可決承認されました。改めて役員
の方々の氏名を次に記します。

支部長 萩 紀男(昭35卒) 幹事 鶴野 元(愛知、
昭42卒)、佐藤和徳(愛知、昭42卒) 赤松正行(岐
阜、昭59卒)、三谷竜彦(三重、平8卒) 河原崎
弘(静岡、昭35卒)

当支部の今後の課題としては、同窓会活動の活発
化と、隣接各県(石川、富山、長野など)との連携
問題であろうと思います。皆さんのご意見を伺いな
がら、検討したいと考えます。

総会後、松嶋先生に「最近の文学部の動向と私の
研究」と題して講演いただきました。前半の、文学
部の動向につきましては、国立大学法人化以後環境
が非常に厳しくなっているとのこと。その中でも新
しい取り組みを含めてさまざまな発展策が講じられ
ている様子で、同窓生としては、心強い限りでした。
殊にまだ最終結論ではないまでも、来春より大学院
が人文学研究科(博士前・後期)として一本化し、
文学部の上に設置される見通してあるとのお話は、
出席者一同に大きな喜びとして受け入れられました。

後半部分の松嶋先生の研究領域のお話は、高度な専
門分野の内容であるにもかかわらず、部外者にも理
解しやすく、平易明快にお話しいただきました。

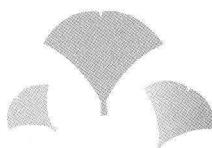
最後の懇親会は、和気藹々の雰囲気の中で、旧交
を温めるとともに新しい出会いが生まれ、各人の心
に楽しい思い出を残してくれました。来年また元気
でお目にかかりましょう！

■文窓会東海支部ホームページを開設

国立大学法人化以後、同窓会の存在は極めて重要
です。このたび、一般会員が気軽に参加でき、知ら
ぬ間に互いの連帯感が育まれるようなホームページ
を開設したいと考えました。学生時代の思い出、人生
観や読書感想、社会批評、家族のこと、職場のこと、
恋の悩み、その他もろもろ、なんでも結構です。自由
に話し合っていただきたいと思います。いわば電子
時代の「井戸端会議」であり、「浮世風呂」であり
「とこや談義」の場であります。

アドレスは次の通りです。ご来訪お待ち申し上げ
ます。

<http://www.hpmix.com/home/bunnmado/>



文窓会（文学部同窓会）—会計報告—

平成17年度収支計算書（平成17年7月1日～18年6月30日）

18年度予算書

(18・7・1～19・6・30)

取入総額	9,143,725	(当期収入)	5,336,058
支出総額	5,147,604	(当期支出)	5,147,604
差引	3,996,121	(当期差引)	188,454

取入	8,996,121
支出	8,996,121
	0

収入の部	予算額	決算額	差異	18年度予算額
会費納入金	4,000,000	4,260,000	260,000	4,000,000
協力金	1,000,000	1,076,000	76,000	1,000,000
利息金	0	58	58	0
総会々費	0	0	0	0
雑収入	0	0	0	0
前年度繰越金	3,807,667	3,807,667	0	3,996,121
収入合計額	8,807,667	9,140,725	333,058	8,993,181

支出の部	予算額	決算額	差異	18年度予算額
会議費	150,000	147,770	△ 2,230	150,000
事務印刷費	80,000	35,035	△ 44,965	80,000
通信交通費	120,000	108,000	△ 12,000	120,000
交際接待費	250,000	246,760	△ 3,240	250,000
協力金費	1,300,000	1,097,000	△ 203,000	1,300,000
(学友会費)	200,000	(117,000)	(△ 83,000)	(200,000)
(活動援助費)	200,000	(180,000)	(△ 20,000)	(200,000)
(学術助成費)	900,000	(800,000)	(△ 100,000)	(900,000)
会報費	1,800,000	1,484,657	△ 315,343	1,800,000
歓送迎会費	500,000	466,647	△ 33,353	500,000
(卒業生対象)	500,000	(466,647)	(△ 33,353)	(500,000)
(入会生対象)	0	(0)	(0)	(0)
総会幹事会費	150,000	0	△ 150,000	200,000
事業活動費	1,000,000	0	△ 1,000,000	1,000,000
慶弔弔費	100,000	30,000	△ 70,000	100,000
雑費	50,000	31,735	△ 18,265	50,000
積立金	2,000,000	1,500,000	△ 500,000	1,500,000
予備費	1,307,667	0	△ 1,307,667	1,946,121
支出合計額	8,807,667	5,147,604	△ 3,660,063	8,996,121

平成17年度財産目録（平成18年6月30日現在）

科目	金額	
I 資産の部		
(1) 通常会計流動資産		
現金	477,712	
普通預金	401,000	(中央三井信託銀行)
普通貯金	1,463,629	(郵便局)
郵便振替	1,653,780	3,996,121
(2) 特別積立金		
定期預金	11,510,000	(みなと銀行)
定期預金	4,000,000	(中央三井信託銀行)
定額郵便貯金	2,000,000	(郵便局)
" "	3,204,000	
" "	3,000,000	23,714,000
II 負債の部		
(1) 流動・固定負債	0	0
III 正味財産合計		27,710,121

事業年度に係わる決算報告書を監査した結果、適正であることを認めます。

平成18年7月20日

会計監査 中川一三 印

会計監査 永田良 印



第1回（2006年度） 神戸大学ホームカミングデイ＆文窓会総会

国立大学法人として新たなスタートを切った神戸大学を、卒業生の方々に知っていただき、旧友や恩師、現役の教職員・学生との交流の場を設けようと、第1回神戸大学ホームカミングデイが企画されました。

■記念式典(11:00～12:00)招待者のみ・文学部10名 展示・見学(9:30～17:00)

☆神戸大学史特別展『分校・教養部の世界』☆旧三商大写真展(於：百年記念館)

☆地域連携センター・海港都市研究センター関係の展示(瀧川記念学術交流会館)

☆山口誓子記念館の自由見学など

文学部ホームカミングデイ＆同窓会総会

文学部同窓会も大学(文学部)と協力し、下記のような事業を行います。旧友お誘いあわせの上多数ご参加下さい。なお、各学部とも独自の事業を企画しております。

文学部新館351教室にて

13:00	受付開始
13:30～13:40	松嶋文学部長挨拶
	・大学現況報告
13:50～14:50	記念講演鈴木利章名誉教授
15:00～15:30	文窓会総会

瀧川記念学術交流会館にて

15:40～16:10	バレエ公演・藤田佳代 (14回生) 舞踏研究所
16:30～18:00	懇親会 ～記念式典(百年記念館)の録画放映～ 参加費 無料(同窓会費より)

就職支援の協力お願い・活動報告

文学部では昨年度に引き続き、今年も年3回の就職ガイダンスを予定しています。

先日、第一回「自分に合う仕事がわかる自己分析」を開催しました。参加者は他学部の学生も含めて100名ほどの数におよび、学部での就職ガイダンスへの関心の高まりをうかがわせるものでした。今回は、毎日コミュニケーションズの伊勢由規さんをお招きし、「自分に合う仕事」がわかる自己分析」と題した講演をしていただき、参加者全員による自己分析シートによるワーク、4回生や修士2回生就職内定者による体験報告、伊勢さんを交えてのディスカッションなどを企画しました。文学部独自の傾向や特色も分かりやすく説明していただき、学生たちにはよい動機付けの機会になった模様です。

教務学生係、学生委員会を中心に、学部全体で就職支援体制のいっそうの充実化を実現できるよう努力していくきます。同窓会の皆様方には、いっそうのご支援とご協力をよろしくお願ひいたします。

(前川 修 文学部副学生委員、就職支援担当)

文窓会主催卒業記念パーティ

平成18年3月24日 於ランスボックス
華やかな和服姿が彩を添えて今年も恒例のパーティーが行われました。酒肴も豊富、4年間を振り返っての楽しい談話。お楽しみ抽選会では当選者にプレゼント、受賞者は将来の抱負について一言スピーチ。はつらつとした新社会人が羽ばたく姿が眩しく映りました。
(中西記)

“野上学長を囲む懇談会”が開かれる。

神戸大学学長を励ます会(代表 難波 昭)が主催する“学長を囲む懇談会”が去る5月22日、ポートピアホテルで開催された。出席者は71名、協力者は83名、合計157名が参加。文窓会からも5回生の徳山悦子氏、永田良氏、三宅陽子氏等7名が出席し、大学が直面するいろいろな問題について学長と本音で懇談した。
(日高記)

“卒業45周年記念の集い”がポートピアホテルで開催される。

去る6月5日、神戸ポートピアホテルにて、卒業後45周年の記念のパーティーが開かれた。全学部から同窓生220余名が出席。文学部からも9名が参加した。中井実行委員長から、当時盛んであった学生運動の視点からの挨拶があり、来賓の野上学長、新野学友会会长の大学のビジョンや課題についての話があった。また、母校の発展のために役立てて欲しいと同期生から募った寄付金228万7千円が学長に謹呈された。5年ぶりの再開に、お互いの健勝に話の花が咲き、盛会のうちに閉会した。
(日高記)



神戸大学学友会について

神戸大学学友会は各学部同窓会の相互交流と大学の発展に寄与するため、同窓会の連合体として組織され、各学部から選出された人たちによる幹事会で運営されています。

具体的な活動としては、幹事会や大学役員との懇談会のほか、大学広報誌（KOBE university STYLE）編集委員会、神戸大学クラブ（KUC）運営委員会、データベース委員会などです。現在、学友会を構成している同窓会は下記のとおりで、会長は新野幸次郎凌霜会理事長です。

神戸大学学友会を組織している同窓会

● 神戸大学文窓会	● 神戸大学翔鶴会	● 神戸大学紫陽会	● 社団法人凌霜会
● 神戸大学くさの会	● 神戸大学神緑会	● 神戸大学就進会	● 社団法人神戸大学工学振興会
● 神戸大学六篠会	● 神戸大学海事科学部同窓会		

「神戸大学クラブ」(K・U・C)に入会しませんか

神戸大学卒業生が学部の壁を越えて、交流をはかり親睦を深める集いがK・U・Cです。神戸、大阪、東京で、それぞれ別々にいろいろな活動を展開しています。神戸K・U・Cは元町の牡丹園に事務所を置き、講演会、読書会、ゴルフ、旅行など、楽しい催しを実施しています。

ご入会ご希望の方は **078-334-1323** までご連絡下さい。

詳しいパンフレットをお送り致します。

(K・U・C 運営委員 日高 健一)



「文窓会のホームページの充実をめざして」

池上 淑子

文部科学省による国立大学法人化が実施されて二年半が経ち、神戸大学においても、学問的な業績を上げつつ企業や自治体とも連携して社会に開かれた大学としてその活動が徐々に評価されつつあります。

無論文学部も、地域と共生しつつ、広汎なグローバル化にも対応出来るような学生を育てるべく邁進しています。文窓会では文学部充実への一助として、また会員間の交流を深める目的で昨年ホームページ“文窓会”（管理者 11回生 西村重和氏）を開設致しました。ここでは文窓会会員の多彩な活動を紹介することで「人の輪」を大きくし、また後輩たちへも知的の刺激を与え、文学部をアピールする場になることを願っております。

出版物、講演、ユニークな活動や話題性に富む話など是非ご紹介ください。ご寄稿お待ちしています！また学部や教官などが新聞に載った記事があればご一報頂きますよう、宜しくお願ひ致します。

文窓会のH・Pのメール・アドレスは lit-alumni@kobe-u.com です。

編集後記

国立大学の法人化が進むなか神戸大学も大きく変わりつつあるのはご承知の通りです。神戸大学が何を目指し、時代の変化に如何に対応しているのか、平成18年度入学式の学長式辞によく現れていますのでダイジェストして「大学の今」をご紹介します。後日「学長を励ます会」でも更に詳しいお話をありました。加えて文学部の最新の組織図と各研修のプロフィールを先生方のお手を煩わせて紹介しました。古い卒業生には新しい文学部の一端でもご認識頂ければ、と思います。

また大学の長い歴史の中でも60年安保闘争と70年学園紛争は特筆すべき事象でしょう。特に70年の紛争では心ならずも卒業出来なかった者、志高く卒業を拒否した者も多数いました。「彼等の今」を同期生の田中様に一文頂きました。

原稿をお寄せ下さった方々に心よりお礼申し上げます。次号も文窓会会員の声をどんどん取り上げていきたい思います。共有したい情報、耳新しいニュース、出版刊行物の紹介、各期便り、ご意見、ご感想などお待ちしています。

鞍井記

題字：文学部教授 福長 進先生にご依頼しました。